

中医協「2013年度第11回 診療報酬調査専門組織・DPC評価分科会」2013/12/9 DPC病院I群による指導医療官の派遣を評価へ

診療報酬調査専門組織・DPC評価分科会（分科会長：小山信彌・東邦大学医学部特任教授）は12月9日、2014年度診療報酬改定に向けたDPC制度の対応について中間取りまとめを行った。



事務局は、これまでの議論を基に機能評価係数や算定ルール等の見直しについて整理した資料を提示。前回からの積み残し事項となっていた機能評価係数Ⅱのデータ提出指数については、「保険診療指数」への名称変更とともに、DPC病院I群（大学病院本院）が医師を指導医療官（厚生労働省職員として保険診療に関する指導等を実施）として1年間派遣した場合に指数を加算する評価の新設を提案した。

委員から「指導医療官の派遣による効果の評価も含めて考えるべき」との意見が出たことに対し、事務局は「（適切な保険診療の普及という目的に対し）実効性を担保する必要がある」と認識を共にする姿勢を示すと同時に、「現場では指導医療官になる医師が不足している」と問題意識を説明した。伏見清秀委員（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科環境社会医歯学講座医療政策情報分野教授）は、「指導医療官の派遣が、直ちに適切な保険診療の普及につながるか疑問」として再検討を主張したが、最終的には提案を受け入れ、分科会として名称も含め事務局案を了承した。

また、地域医療指数の体制評価指数の1つである「災害時における医療」の評価項目に、「新型インフルエンザ等対策に係る指定地方公共機関の指定」を加えることなどを了承。

さらに、3日以内再入院ルールにおいて、一連の入院と見なされる病名を「DPC上2桁コード（現行は上6桁コード）」に見直すに当たり、一部事例について影響を懸念する声が聞かれたため事務局が精査することとなった。なお、同ルールでは再入院までの期間を3日以内から7日以内にするなどが既に了承されている。

その他、文言の修正等を行った上で、中間取りまとめ案を中医協・総会に報告する。

■「DPC/PDPS 傷病名コーディングテキスト」を報告

7月に同分科会で報告されていた「DPC/PDPS 傷病名コーディングガイド Ver.1.0」については、内容の見直しを行うとともに名称を「DPC/PDPS 傷病名コーディングテキスト」に改めたことが報告された（13.7.26 中医協 第5回「診療報酬調査専門組織・DPC評価分科会」http://www.medical-lead.co.jp/documents/130726DPC_001.pdf参照）。

コーディングテキストは、適切な傷病名のコーディングを行うための手引書として、医療機関が開催する「適切なコーディングに関する委員会」における参考資料としての活用が想定されている。前回案に適切なコーディングが必要な理由などを追記するとともに、注意すべきコーディングの事例集を掲載した。今後、ワーキンググループを設置し見直し作業を続ける。